



第9回 大和川の水環境と生物

| | |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-08-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 谷田, 一三 メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/10466/10850 |

間生活ポテンシャル〉の二つの視点から考える必要性があり、併せて、居住者が求める孤立林を考える必要がある。

次に二つ目の歴史的共生という点では、歴史と一体となった鎮守の森に着目してみると、鎮守の森は、地域のコミュニティの拠点であり、精神的なよりどころとなっている。また、もう一つの歴史的な緑には、神社などから切り離された路傍樹がある。路傍樹には伝説があり、神秘的な力を持ったものとして捉え、見守る人がいる。中には路傍樹を残すために道路の線形を変えているところもあり、こういうことは大事なことである。

以上のように、健全な都市環境を作っていくためには、自然と共生する方策を探り、且つ実行していく事が地域の再生に繋がる。基本的に環境マネジメントとは、一つには「人の健康」（肉体的・社会的・経済的な健康）、一つには「地域の健康」（環境・コミュニティ・地域経済）があり、このあたりが一体となって、総合的マネジメントを考えていかなければならない。

第9回 大和川の水環境と生物

12月18日

谷田 一三（大阪府立大学教授）

我々の身近にある大阪府立大学の池は、狭山池と繋がっていて、府大池も仁徳天皇陵の池も身近な大和川である。

大和川は放水路として1704年に改作され、堺は大和川の付け替えにより、住吉大社との間を川により分断された。その結果、狭いまち単位となり、衰退を招くようになった。

この大和川をもう一度見直してみると、水質ワースト河川であり、東の綾瀬、西の大和といわれている。何故大和川の水が汚れているか。それは、大和川の流域は、少雨地域であり、雨が少ないから汚れがたまる事、また、流路延長が全国109の大臣直轄河川のうち76位で、流域内の人口は、約215万人と人口稠密であることが原因として挙げられる。平成9年には河川法が改正され、生物の環境を含めて川を考えようという項目が加わった。今は下水道の整備が進み、多少よくなってきているが、一番手っ取り早く水を綺麗にするには、外から綺麗な水を取ってくることである。しかし、それよりも、もっと大事な事は皆が水を汚さないようにすることである。昔はどぶ川があったが、そのどぶ川の上にふたをして、今は水が見えないようになっている。水を見えなくすることは、河川環境にとって最も悪い方法であり、河川環境を良くするには、川の周りを綺麗にし、次いで川の水を見ることである。

もう一つ大和川には、亀の瀬地区の地すべりというネックがある。地すべりを起すと

奈良盆地が水浸しになり、狭窄部をあけると下流が水浸しになるという上流・下流の問題がある。

歴史的に大和川を見た場合には、大和川流域には、奈良盆地・飛鳥・河内があり、道が整備されていない時代には、古代から重要な交通路の役目を果たしていたということがある。

次に、どのような生物が生息しているかを見てみると、上流域では、カワムツ・アカザ・サワガニなど、中流から下流では、オイカワやメダカなどとオナガガモ・マガモのような渡り鳥、下流域では、ギンブナ・アユ・ユリカモメ・カマツカ・ボラ・カンムリカイツブリなどがある。このほかにも、ハゼ類・ザコ類（Zacco）・カエル類・カメ類、それとイシマキガイ・シジミなどの貝類、スシエビやアメリカザリガニなどのエビ類、モクズガニなどの棲息が見られる。

流域には景観のいいところもあり、特色のある景色としては、石川の源流に田んぼがある事、また、天見川は細い溪流であるが、川の横には棚田が広がり、大和川のいい環境を残している源流の一つである。もう一つ水と大きな関係を持つ酒蔵が点在している事も、大和川流域の特色の一つといえる。

今後の課題として、大和川の水質がもう少し良くなるように努力すれば、大阪湾ももっと豊かな海となるだろう。また、農業地がかなり減った状態の中で、水利権を見直し、農作物に使われていた水を、カエルのための水、魚のための水に少しずつ戻していくことを考えていく必要がある。身近な府大池については、府立大学の構内全体を構想とした水環境、或は自然環境を作っていこうという企画がある。5年先には、違った府大池を見て頂けると思う。

第 10 回 堺伝授をめぐる

1 月 8 日

西田 正宏 (大阪府立大学准教授)

中世から近世にかけての歌学史の研究の中で、本日は堺伝授を中心にして、古今伝授の話を見せていただきたいと思う。

1 古今伝授（受）とは

「古今伝授」の古今とは、905 年成立の『古今和歌集』の古今である。成立後、時間が経過すると、『古今和歌集』の中に書いてある言葉の意味が分からなくなってくる。そういう言葉に対して、1000 年ごろから注釈や語釈を施すことが起こり始める。広義の「古